


第28回(令和3年度) 千葉県建築文化賞 表彰作品集



主催：  千葉県

共催：  一般社団法人 千葉県建築士会

千葉県建築文化賞について



千葉県知事 熊谷 俊人

令和3年度の千葉県建築文化賞に多くの皆様から御応募をいただき、誠にありがとうございました。

千葉県建築文化賞は、建築文化や居住環境に対する県民の意識の高揚と、うるおいとやすらぎに満ちた快適なまちづくりを推進することを目的に平成6年度に創設されました。

第28回となる今年度は、53点もの御応募をいただきました。その結果、千葉県建築文化賞検討会議による検討内容を踏まえ、最優秀賞2点、優秀賞4点及び入賞2点の合計8点を選定したところです。

受賞作品は、新築の建物から既存ストックを有効活用したもので多岐にわたっており、周辺環境との調和や地域との交流活動を進めるもの、歴史を刻むもの、新たな取組をするものなど、いずれも千葉の魅力を高め、地域の活性化に貢献する素晴らしい作品ばかりです。これらの建築物が、地域社会の中で親しまれ、本県の建築文化の向上と、より良いまちづくりの推進に寄与していくことを心から期待しています。

今後とも県では、皆様と共に、首都圏、日本をリードし、未来の千葉を担う次世代の子どもたちが誇れるような千葉県の実現に向け、全力で取り組んでまいりますので、引き続き御理解と御協力をお願いいたします。

結びに、受賞者並びに御応募いただいた皆様のますますの御活躍をお祈り申し上げまして、あいさついたします。

令和4年3月

目次

千葉県建築文化賞について	1	スパイラル アンド パラレログラム Spiral and Parallelogram/クレバスノイエ	8
第28回千葉県建築文化賞選考経過と総評	2	いちほらライフアンドワークコミッションオフィス	9
ZOZO本社屋	3	イ・コ・イ 唯・巧・居の家	9
東我孫子の家	4	選考の基準	10
香取市佐原チャレンジショップ(上仲町第一施設)	5	第28回千葉県建築文化賞検討会議	10
千葉ウシノヒロバ	6	千葉県建築文化賞の実績(応募総数・受賞作品数)一覧	10
古民家あらやし	7	受賞作品の位置	

第28回千葉県建築文化賞選考経過と総評

応募53点から8点を表彰



千葉県建築文化賞検討会議委員長 北原 理雄

(選考経過)

第28回千葉県建築文化賞は令和3年6月の検討会議で募集要領を定め、7月上旬から9月下旬まで応募を受け付け、総数53点の応募をいただいた。(部門別内訳は下表のとおり。)

1次選考はすべての応募用紙を一堂に展示し、その記載と写真をもとに投票を行い、一般建築物6点、住宅7点を選んだ。次いで11月の3日間をかけ、現地を訪問し、建築物の説明を伺いながら詳細に調査した。2次選考は12月開催の検討会議で、現地調査の報告を踏まえて再度投票を行い、討議を重ねながら優秀な建築物を選んだ。

なお、今回も選考の公平性を保つため、委員と関係のある建築物が応募している場合は、そのことを確認したうえで、当該委員は討議に参加せず、票を投じないこととした。

その結果、最優秀賞2点、優秀賞4点、入賞2点を表彰候補作品として決定した。

今回も新型コロナウイルスの影響を受けたが、第5波のピークが検討会議開催や現地調査の時期とずれたため、なんとかスケジュールどおりに募集・調査・選考を進めることができた。さまざまな規制・制限のなか、力のこもった作品を応募・推薦して下さった皆さまの熱意に、改めて深く感謝します。

今年度の検討会議も座席の間隔を広くとり、オンライン参加も導入して、入念な感染防止策を講じての開催となった。困難な準備に奔走していただいた事務局にも心から感謝したい。

募集部門	選考過程	応募総数	1次選考・ 現地調査	2次選考(表彰候補作品選定)		
				最優秀賞	優秀賞	入賞
一般建築物		27	6	1	2	1
住宅		26	7	1	2	1
合計		53	13	2	4	2

(総評)

一般建築物の部への応募は27点であり、昨年度に比べて2/3弱の件数となったが、事務所、店舗などを中心に、興味深い作品が見られた。

最優秀賞の「ZOZO本社屋」は、ファッション通販企業の本社である。「着心地のよい服のような建築」をコンセプトに、約30mの吊り構造屋根でスキップフロアの執務空間を包み込み、街路に面したファサードを全面ガラスにして、街とのつながりをはかっている。物理的な開放性だけでなく、地域との交流活動も積極的に進めているとのことであり、その成果であろうか、社員が道行く人と会釈を交わし、時に招き入れている姿が印象的であった。

優秀賞の「香取市佐原チャレンジショップ(上仲町第一施設)」は、地元信用金庫が起業支援の店舗として旧支店跡地に建設し、市に寄付した建物である。かつてここにあった呉服屋のファサードを模したチャレンジショップを街道沿いに置き、細長い敷地の奥に山車蔵、ショップ脇に屋外席としても利用できる山車の通路を配している。伝統的建造物群保存地区の活性化をはかる意欲的な施設である。

「千葉ウシノヒロバ」は、半世紀の歴史を持つ千葉市乳牛育成牧場の跡地を民営化した施設である。乳牛育成事業を引き継ぎつつ、既存施設を活用し、ロッジ、トイレ・キッチン棟、シャワー棟などのキャンプ施設を整備し、自然共生型の観光拠点を目指している。ハード面だけでなく、ソフト面でも魅力的な挑戦である。

入賞の「いちばらライフアンドワークコミッションオフィス」は、移住定住による空き家活用プロジェクトの拠点施設である。空き家を改修した空間は荒削りだが、地域おこしを先導するエネルギーを感じさせる。

一般建築物の部

住宅の部は、昨年度(14点)の倍近い26点の応募があり、ほとんどが専用住宅だが、生活も環境も多彩で、受賞にいたらなかった作品にも質の高いものが多かった。

最優秀賞の「東我孫子の家」は、緑豊かで閑静な住宅街の角地に建つ控えめなスケール感の住宅である。扉や門扉を設けず、道路境界に在来種の樹木と下草を植えており、軒高を低く抑えたファサードとあいまって、周辺環境と調和したたたずまいを生んでいる。きめ細かな設計とそれに呼応した大工棟梁の技能がみごとに結実している。

優秀賞の「古民家あらし」は、築100年の古民家を改修した一棟貸しの宿泊施設である。里山の緑に包まれて住みつけられてきた民家を、躯体、梁・大黒柱など当初のまま維持しつつ、現代の暮らしに合わせて改装している。屋根裏を積極的に見せる工夫など、建築文化継承の意欲を感じさせる。

「Spiral and Parallelogram/クレバスノイエ」も、住宅地の角地を占めているが、前面道路の交通量が比較的多く、南西風が強いという条件に合わせ、杉板の垂れ壁でくまられた姿をしている。しかし、過度に閉鎖的ではなく、吹き抜けを介して連続する生活空間の気配が、テラスのスリットや開口部から街ににじみ出している。

入賞の「唯・巧・居の家」は、JR駅に近い用途混在エリアに建つ4戸の分譲住宅である。薄暗いデッドスペースになりがちな隣棟空地の位置・形状を工夫し、間口約10m、奥行き約45mの敷地に心地よい「庭」を持つ都市型住宅を実現している。

住宅の部

最優秀賞

一般建築物の部

～宇宙・地球・地域・仕事場を貫く企業理念を実現化した
まったく新しい働く場の創造～

ZOZO本社屋

建築主：株式会社ZOZO

設計：中村拓志 & NAP建築設計事務所
株式会社 竹中工務店

施工：株式会社 竹中工務店

所在地：千葉市稲毛区緑町1-15-16



街と企業が共存し新しい価値を創り出す

JR総武線稲毛駅と西千葉駅の中間に新築され、斬新な概念が充満したオフィスビル(建築面積:1,388㎡、延床面積:3,621㎡、地上2階、地下1階)である。その立地特性に従い、「想像と創造が行き交う街、西千葉」がテーマに掲げられた。そして、多様な「領域型オフィス」の実現を目指し、企業と街の繋がりや連続感の創出にこだわった仕事場づくりの姿勢が訴求された。

ガラス面で南北方向に大きく解放され、最長約30mの3枚からなる半剛性吊り構造屋根によって、布で包み込まれたような印象的なスキップフロアの大執務空間が生み出された。その中には大机から個室、地下の大小会議室まで自由に選択できる様々な作業場が設けられている。そしてこの屋根と壁を平面的、断面的にずらすことによって、しなやかで躍動感溢れる空間構成が生まれた。道路沿いの皮下には内外同じレベルに執務空間が並び、街との連続感がデザインされている。さ

らに、社屋の前に設けられた広場を起点として、地域の人々に関わり合える様々な活動の関係性が見られる。細い木材を編み込んだ布のような屋根と壁が、働く人々を柔らかく包み込み、建築自体が企業の求める着心地の良いアパレルのようだ。さらに、そこかしこに掲示・設置された若手による多数のアート作品は、働き手自らが選び取り、仕事の空間に彩を添えている。

以上の構成の全てが、ユニークかつ魅力的でイノベーションに満ちた仕事場を生み出している。その結果、時代の先取りをした建築文化の実践事例として最優秀賞の高い評価を得た。
(岩村 和夫)



ひとつ屋根の下でともに働く一体感を生み出す架構計画



街と繋がる領域型オフィス

(撮影全て/TOREAL 藤井浩司)

最優秀賞

住宅の部

建築主：I氏
設計：稲田豊作一級建築士事務所
施工：小倉建設株式会社
所在地：我孫子市

～地域と調和した和・美のある家～

東我孫子の家



化粧軒裏と開口部まわり

東我孫子駅より、住宅がつながり手賀沼方面へ向かう、みどり豊かな住宅地で、すぐ隣には1931年に開場した我孫子ゴルフ倶楽部や手賀沼付近の風景が、みどり豊かで海に近い鎌倉の地形と似ていることもあって多くの文化人が愛したとされるこの地に「東我孫子の家」がある。

敷地は角地を有し、既存の高い庭木と数本の低い庭木で外部との緩衝と融和が図られていて、門扉や塀を設けないオープンな形は人と町並みに開放された外部構成となり、住む人の気持ちが表現され心地良い。

外観を見ると道路面の軒高を低く抑え、玄関前の空間を屋外作業や駐車ほか、地域の仲間との交流と利用を考へて机やベンチを配置したオープンテラスが目をひく。

軒先や軒裏、2階の開口部いっぱい広がるベランダ等の木質感が建物と周辺環境を融合させている。玄関の木製扉を開くと、右に住居入口引戸、左に茶室風三畳小間があり、訪ねて来られた人との談室としてそのおもてなしの心

が伝わる。

2階へ上がると大開口を持つ広間が迎えてくれる。

オープンキッチンと一体感がある落ち着いた空間で、外部への大開口が住と自然を結び春夏秋冬を楽しめる贅沢を感じさせる。造作材や構造材の仕事が日本建築の工法を熟知した大工棟梁の知識と技能に支えられた美しいデザインであり、どの室も自然と調和をしつつ、プライバシーを守れる間取りに感動した。

この建物こそ、この地、我孫子にふさわしい景観を創り出して街づくりの一端を担っていこう。

(竹江 文章)



北面外観全景



茶室風三畳小間

(撮影全て/鈴木慎之介)

優秀賞

一般建築物の部

建築主：香取市

佐原信用金庫

設計：岸本章設計所

施工：石井工業株式会社

所在地：香取市佐原イ3394-2

～佐原の町を活性化させる スタートアップ支援店舗～

香取市佐原チャレンジショップ(上仲町第一施設)



香取街道側ファザード

「香取市佐原チャレンジショップ(上仲町第一施設)」は、国の重要伝統的建造物群保存地区内に位置し、地元企業である佐原信用金庫が創業90周年事業として旧本宿支店跡地に建設し、香取市に寄付したものだ。地元で物販や飲食店舗を起業する人に2年契約で場所を提供する。さらにメニュー開発や事務経理まで幅広く支援しながら、佐原の町に根付いてもらえるようにスタートアップ支援を行うという試みだ。

外観は、保存地区の町並に調和するよう「香取屋呉服店」のファサードを、プロポーションを合わせて違和感なく再現し、物販と飲食店のそれぞれの顔が出るように配置した。

2つの店舗の内装は細長い舟底をイメージした強い方向性を持った曲面天井と間接照明によって、奥に引込む動線と視線を生み出している。

配置計画は道路側から、チャレンジショップ棟→佐原信用金庫ATM棟→山車蔵と続き、チャレンジショップ棟の脇は山車の通路として空間を確保しながら、普段は飲食店の屋外

席やATMへのアプローチとしてうまく使われている。山車が出る祭りのときは観覧席となり、飲食テナントが入らないときは市の無料休憩所として使用することも想定されている。

また、ATMを前面に出さないことで利用者は自然と店舗の脇を通り、関わりを持つことができ、山車蔵の存在感も増した。奥に長い敷地を縦に分断したことで、それぞれの良さが引き出される結果となり全体が活性化した。

この「香取市佐原チャレンジショップ(上仲町第一施設)」を巢立つ経営者は佐原の町のどこかで新たな店舗を築き、佐原の町とともに成長していく足がかりとなっていく。

(藤本 香)



屋外席は山車の通路になっている



チャレンジショップ内部 入口側を見る

建築主：株式会社千葉牧場
 設計：株式会社TAIMATSU 一級建築士事務所
 施工：株式会社湯川工務店
 所在地：千葉市若葉区富田町983-1

～老朽化した牧場施設の価値を引き出すデザイン～

千葉ウシノヒロバ



AllSite

ずっと前からあったような牧場の柵の続く道がのどか。先細り傾向にある乳牛育成事業をキャンプ場収入で支えるという地域ベンチャーだ。どこの農家も乳牛1頭を飼っていた時代の、当たり前小さく循環していた地域の仕組みこそ、サーキュラーエコノミーではないかとほっとさせられた。

人の集う大屋根イベントスペースは、旧牛舎にいたずらに手を加えず。受付の建物もあえてくたびれた倉庫感を演出。他方、新築牛舎では、アニマルウェルフェアを勉強し尽くした溝部礼土さんが、人と牛の幸せな関係を積極的に提案している。キャンプ場を訪れた人たちは、さながら神社のように鎮守の森を背にし、高みに堂々と立つ牛舎にいる牛たちの気配を拝む。

旧放牧場がそのままキャンプサイトに開放されていて、どこにテントを張ってもいい。川上美里さんは、オフグリッドで電気のありがたさを体感し「不便さ」を楽しむコンセプトを提案。少しだけ雨風をしのげる小屋を借りることがここでは贅

沢。とはいえ、トイレやシャワーが汚いのはイヤ。そういった現代人の要求にはしっかり応えた松尾宗則さん。三角屋根の新築トイレ・キッチン棟とシャワー棟(旧屋外トイレ)を集中させ、そこだけインフラ完備だ。

ビジネスをデザインし経営する川上鉄太郎さんと半ばフリーランス的な動きのできる建築家たちが、プロジェクトチームを組んでコンセプトを育てていくかたちが新しい。単なる建築物を超えて、人間と他の生き物たち、来歴を含めた場所との関係をデザインすること。これこそが、SDGsが真に建築デザインに求めている大転換ではないかと考えさせられた。

(岡部 明子)



牛舎



Toilet+Kitchen

建築主：岡田 智子
 設計：株式会社 中村工務店
 施工：株式会社 中村工務店
 所在地：勝浦市宿戸

～家族の歴史を繋ぐ住まいのカタチ～

古民家あらし



ダイニング

古民家と聞くと、建設された当時の建築様式を維持したまま保存され、タイムスリップしたかのような印象を導く空間を想像する人がいるかもしれないが、この作品はそのようなイメージとは一線を画すものである。300年以上続く農家であった一族が、100年以上住み繋いできた空間は、特筆すべき派手なものがあるわけではないのだが、時代ごとの主の好みや生活スタイルの変化に伴い部分的な改修を丁寧に重ね、その時々が必要で空間にちょうど良い家具を選び生活を営んできた歴史が感じられるものであった。それゆえに、一つの建築様式では言い表しがたく、時代ごとの風情が混在していながら、うまく融合

していてなんとも心地よい。床板がきしむ部分があり、訪れる子供が走っても安心のように修理するのだと次の改修計画を語る今の主の姿に、住まう人へのとても大きな愛情によって、都度都度に丁寧な改修が重ねられてきたのだと気付かされ、より温もりを感じ、愛しむ気持ちにさせられた。



全景

近年、千葉県に限らず古民家再生を謳うプロジェクトが多くみられる。建物の躯体を活かしてはいても、脈絡のない改修は、生活の履歴が分断され、そこに流れている空気感を失っていることがある。「壊してしまうのは簡単だが、壊してしまったらその家の歴史も失うような気がしてならない。形を残すことでその家の歴史が受け継がれていくのだと思う。」と主が言う通り、本作品は歴史を紡いでいるのだろう。特別なストーリーではない普通の暮らしと共にある建築を住み繋ぐことの大きな意味を伝える良い作品である。勝浦の里山に長く続いていくことを願っている。

(加藤 未佳)



ダイニング天井

(撮影全て/かずま 草原学)

優秀賞

住宅の部

建築主：東山氏

設計：伊藤潤一建築都市設計事務所
多田脩二構造設計事務所

施工：株式会社大和工務店

所在地：船橋市宮本 スパイラル アンド バラレログラム

～家族の気配を縦横に伝え合うユニークな住まい～

Spiral and Parallelogram/クレバスノイエ



外観1

計画地は船橋市の住宅街で、北と東に道路、西と南の隣地には木造住宅のある角地である。隅切りした長方形の敷地を囲む素朴な杉板塀が、螺旋を描きながら外壁となり連続して昇っていく様子はシンプルで造形として、とても美しい。

建物の空間構成の基礎は敷地を3分割した長方形を変形して中央にできた平行四辺形だ。各頂点を徐々にリフトアップしていくことで外観の螺旋を描き、壁が生まれ、壁は単に内外の領域を分けるものではなく、ポーチの低い壁、テラスの風を通すルーバー、道路から守る壁、西日を遮る垂壁など役割を持ち、多様な場を生み出すためのツールとなっている。

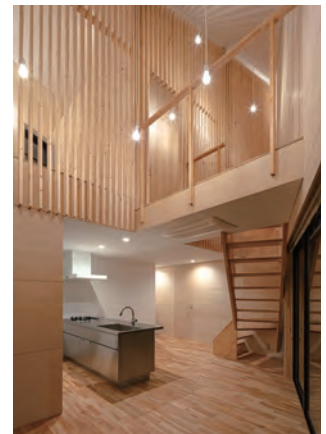
内部空間のLDKとテラスは長方形の対角線上のサッシで内外に分かれる構成となっているため、LDKからテラスへの横への広がりや視線は場所によって変化がある。テラスからはクレバスの空が見えて、吹抜上部を見上げると三角形のクレバス状の入隅がある。閉じた空間や抜けた空間などがある不思議な感覚だ。また吹抜に面した2階は縦格子で仕切られているため、家族の気配を感じながら1、2階へつながるワンルーム空間をゆるやかに

分ける。縦と横につながる空間だ。

単純な幾何学を用いながら、内外に複雑で多様な空間を巧みに作り上げた丁寧な設計は無駄なところがなく、臨場感がある。施工者も細部の納まりまで検討していた。また、建築主は設計意図を理解して、家具の仕上げや選定、配置も「クレバスノイエ」にふさわしく、うまく住みこなしていることに好感がもてた。「クレバスノイエ」は3者の協力から生まれた優秀賞にふさわしい作品だ。（藤本 香）



外観2



LDK
(撮影全て/浅川 敏)

入賞

一般建築物の部

建築主：市原DMO（一般社団法人市原市観光協会）

設計：kurosawa kawara-ten

施工：kurosawa kawara-ten

所在地：市原市朝生原818-1

～古いモノ×デザインで生まれる新しいモノとコト～

いちほらライフアンドワークコミッションオフィス

本作品は、空き家の改修・活用を促進するために設立された「いちほらライフ&ワークコミッション」のオフィスである。プログラムの意図を具現化したかのようなこの拠点は、空き家を活かし、そこにある様々なものに価値を見出し、デザインの力で魅力的なものに昇華し再利用するという姿勢は揺らぐことなく一貫している。

ファッションの世界ではSDGsの影響もあり、古着をリメイクして新たなデザインとして再生したり、売れ残った商品を組み合わせ再構築することで新しいデザインを生み出すといった流れがあり、新鮮でスタイリッシュかつクールと捉えられているが、この作品も同様で、異なる



内観

受付より打合せスペースと事務スペースを見る
(撮影全て/千葉 正人)

デザインのガラスが隣同士

で配置され、地元の雑木を乾燥製材した真新しい木材と時間の経過を感じる木材が混在する様子は、景色の新鮮さに加え、それぞれから想像される履歴が温かみを感じさせ、それらが絶妙に組み合わせたり、新たな価値観を提示されている感覚になる。

そして、この作品の最大の魅力は若い世代がプロジェクトを推進する中心となっていることである。ワクワクという言葉を全身にまとい活動する様子は、エネルギーに溢れている。本作品は一過性でない次の世代の価値観醸成に寄与するに違いない。

(加藤 未佳)



正面入口

入賞

住宅の部

～コストパフォーマンスの高い狭小ながら、
住み心地の良い都市型住居～

唯・巧・居の家

本作品の周辺エリア(松戸市)は近年都市化による居住空間の過密化が進み、プライバシーの確保が困難な弊害を抱えている。そこで、集まって住もうアフォーダブルな分譲住宅として、改善の糸口たる都市型居住のあり方(建築面積:49.7~55.2㎡、延べ面積:97.6~99.9㎡、地上2階)が提案された。

それは、都市型居住における「自然な集住の距離感」をデザインすることである。この「程良い」距離感を確保するにあたり、小規模ながら「庭」をキーワードにした住戸プランとの接し方や使い方、さらに四季折々の「気配」、「繋がり」、「関わり」に3つのバリエーションを持たせることとした。それぞれ「縁庭(へりにわ)」、「斜庭(はすにわ)」、「路庭(みちにわ)」と名付けられた。

住まい手は日々の暮らしの中で近隣との繋がり方、関わり方を気分と目的に合わせて、高めの天井高や開口部とともに自由に選択、調整することができる。そして、暮らしに楽しさや心地良さが与えられ、家の中だけでなく外の街へと染み出す。拝見したお宅の住まい手が見せた満足度はその実態を表している。優れた都市型分譲住宅の可能性が評価され、住宅の部での入賞を得た。

(岩村 和夫)



南側正面写真



縁庭(へりにわ)が生み出す、
適度なお互い様の心地よさ

建築主：ポラスガーデンヒルズ株式会社

設計：ポラスガーデンヒルズ株式会社

施工：ポラテック株式会社

所在地：松戸市新松戸

選 考 の 基 準

次の事項を選考の基準とし、総合的に審査します。

- デザイン性に優れていること
- まちなみや周辺の景観と調和がとれていること
- 安全で快適な建築空間を創出していること
- 環境負荷の低減に配慮していること
- 防災への配慮がなされていること
- 施工上優れていること
- その他、独自の取組や提案がなされていること

※建築基準法等の諸法令に適合しており、かつ近隣等との紛争が生じていないこと等も含む。

第28回千葉県建築文化賞検討会議

【敬称略 委員は五十音順】

- | | |
|-----------------------|---------------------------|
| 委員 長 北原 理雄：千葉大学名誉教授 | 委 員 岡部 明子：東京大学大学院教授 |
| 副委員長 岩村 和夫：東京都市大学名誉教授 | 委 員 加藤 未佳：日本大学准教授 |
| | 委 員 竹江 文章：一般社団法人千葉県建築士会会長 |
| | 委 員 藤本 香：建築士、千葉大学非常勤講師 |

千葉県建築文化賞の実績(応募総数・受賞作品数)一覧

回数	年度	応募総数	建 築 文 化 賞			建築文化奨励賞
			部 門		合計	
1~19回計 (H6~H24)		1,600	景観上優れた建築物の部	46	96	58
			ユニバーサルデザインに配慮した建築物の部	26		
			環境に配慮した建築物の部	24		
20	H25	68	一般建築物の部	4	6	2
			住宅の部	2		
1~20回計		1,668			102	60

回数	年度	応募総数	部 門	建 築 文 化 賞				
				部門別内訳	最優秀賞	優秀賞	入賞	合計
21	H26	52	一般建築物の部	1	2	3	6	
			住宅の部	0	1	2	3	
22	H27	54	一般建築物の部	1	3	2	6	
			住宅の部	1	1	0	2	
23	H28	98	一般建築物の部	0	3	2	5	
			住宅の部	0	3	1	4	
24	H29	81	一般建築物の部	1	3	2	6	
			住宅の部	0	2	1	3	
25	H30	75	一般建築物の部	0	2	3	5	
			住宅の部	1	2	1	4	
26	R1	67	一般建築物の部	1	2	3	6	
			住宅の部	1	1	1	3	
27	R2	59	一般建築物の部	1	5	2	8	
			住宅の部	0	0	1	1	
28	R3	53	一般建築物の部	1	2	1	4	
			住宅の部	1	2	1	4	
21~28回計		539			10	34	26	70

- ※1 千葉県建築文化賞は、「景観上優れた建築物の部」及び「高齢者・障害者等に配慮した建築物の部」の2部門への表彰制度として平成6年度に創設。
- ※2 第3回(平成8年度)に「建築文化奨励賞」を新設。
- ※3 第5回(平成10年度)に「環境に配慮した建築物の部」部門を新設。
- ※4 第12回(平成17年度)に「高齢者・障害者等に配慮した建築物の部」から「ユニバーサルデザインに配慮した建築物の部」へと部門の名称を改称。
- ※5 第20回(平成25年度)に「景観上優れた建築物の部」、「ユニバーサルデザインに配慮した建築物の部」及び「環境に配慮した建築物の部」の3部門から「一般建築物の部」及び「住宅の部」の2部門へと部門を再編。
- ※6 第21回(平成26年度)より「建築文化賞」及び「建築文化奨励賞」から「最優秀賞」、「優秀賞」及び「入賞」へと賞の区分を再編。

千葉県建築文化賞は、多くの皆様の協力で支えられ、回を重ねてまいりました。
 その間、県下の広い地域にわたり、172(奨励賞を含めると232)の建築物が受賞され、
 それぞれの地域に根付いています。
 第29回の作品募集は、令和4年夏頃行う予定です。皆様方の御応募をお待ちしております。
 千葉県建築文化賞検討会議事務局



受賞作品の位置



お問い合わせ先

千葉県県土整備部都市整備局建築指導課
一般社団法人 千葉県建築士会

〒260-8667 千葉市中央区市場町1-1
TEL.043(223)3180 FAX.043(225)0913

〒260-0013 千葉市中央区中央4-8-5
TEL.043(202)2100 FAX.043(202)2101

後援

(公社)千葉県建築士事務所協会
(一社)日本建築構造技術者協会関東甲信越支部JSCA千葉
(一社)日本建築学会関東支部千葉支所

(公社)日本建築家協会関東甲信越支部千葉地域会
(一社)千葉県設備設計事務所協会